Strategy

ステークホルダーとの対話

1.ステークホルダーとの対話から創出される価値

ステークホルダーの皆さまとの責任ある対話は、デンカグループとしての社会的責任、社会貢献、企業価値向上への期待を確認するための大切なプロセスであり、デンカグループ ESG基本方針「情報開示とステークホルダーとの建設的な対話」としても掲げています。本図では、それぞれの対話の意義、および創出する価値をご説明しています。



2.ステークホルダーとの	対話例 目的・テーマ	手段
お客さま	■お客さまに満足いただける安全で高品質な製品、および適切な情報を提供します。■お客さまとの誠実なコミュニケーションを通して、信頼関係を構築します。	■対面、およびオンラインによるお客さまとの面談 ■テクニカルサービスの提供 ■顧客満足度調査の実施
お取引先	■オープンイノベーションの推進、およびお取引先との良好な関係の構築により、 サプライチェーン全体での共存共栄を目指します。	■対面、およびオンラインによるサプライヤーとの面談■パートナーシップ構築宣言の公表
地域社会	■良き企業市民として、より良い地域社会形成に積極的に参画し、 その発展に貢献します。■政治・行政とも健全な関係を保ち、社会との信頼関係を醸成します。	■総合防災訓練■見学会、説明会■地域交流、対話■イベント参画■教育支援■社会貢献活動

千葉県市原市「ものづくりフェスタ」への参加

2024年8月3日(土)に市原市の市民会館で、市原市内の小学生を対象に、実際にものづくり体験等ができる「ものづくりフェスタ」が 開催されました。当社は、社会貢献活動の一環として今年も参加し、「マイペットボトルを作ってみよう!」と発明教室「フライングディス クを作ってみよう!」のブースを出展しました。





明治大学での「知的財産セミナー|開催

知的財産の概要、特許や意匠の出願や職務発明、契約等、社会人になるまでに学生に知ってほしいテーマについての「知的財産セミ ナー」を明治大学で実施しました。セミナーに参加した学生からは「自身が無形資産の可視化について、興味を持っていたので講義を 受ける事ができて大変勉強になった。」「ビジネスモデルやブランドといった目に見えない価値をどのようにして社会的な共通評価軸に 落とし込んでいるのか調べてみたい。」など関心の高さが伺えました。







グループ社員

■社員の声を反映し、デンカグループの全ての人々が健康で働きやすい 職場づくりを進めます。

- ■社長による事業所視察および対話 ■労使協議会
- ■社内ポータルサイトの活用
- ■社員意識調査の実施
- ■タウンホールミーティング
- ■ランチミーティング

青海工場「子ども参観日」を開催

2024年8月2日(金)に青海工場「子ども参観日」を初開催しました。当日は47人の従業員ご家族が参加され、当社ポバールを使った実 験や、工場長・次長との名刺交換、質問コーナーなどのプログラムを体験しました。参加者からは「もっとここに居たい」「工場の中も歩 いてみたい!「「もっとデンカを知りたい」といった嬉しい声をいただきました。

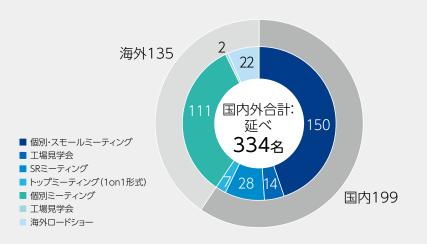




ESG

目的・テーマ 手段

- ■財務・非財務情報を積極的、効果的かつ公正に開示し、建設的な対話を通して 信頼性を確保します。
- ■グループガバナンス体制を強化し、企業全体の価値の向上を図ります。
- ■機関投資家・証券会社アナリストとのミーティングデータ(株主総会、決算説 明会、個人投資家説明会を除く)



株主•投資家

- ■対話の主なテーマと株主の関心事項および開示拡充事項
 - ・ポートフォリオ変革の方針と進捗状況
 - ・経営計画「Mission 2030」策定時から変動した前提条件に対応する経営方針と施策内容
 - ・キャッシュアロケーション(株主還元、戦略投資、人財投資、研究開発、財務レバレッジなど)
- ・今後の成長事業の見通しと投資計画

■株主総会の開催(年1回)

招集通知等株主総会資料の内容を充実させ、開示内容を拡充。当日会場にお越し になれない株主さま向けのライブ配信や、パソコン等を利用したインターネット等 による議決権行使方法を採用

■決算説明会の開催(年4回:各80~100名程度) 社長・経営層が機関投資家・証券会社アナリストに対し、四半期ごとに決算内容や成

■個人投資家説明会の実施 (年1回、対面20名、オンライン300名)

長戦略について説明(記者向けの決算説明会も年2回 開催)

IR担当役員が個人投資家向けに説明会をハイブリッド形式にて開催し、経営計画や 事業概要について説明。

- ■機関投資家・証券会社アナリストとのミーティング (延べ334名)
 - ・個別ミーティング・スモールミーティング(国内150名、海外111名) コーポレートコミュニケーション部が機関投資家や証券会社アナリストと個別 ミーティングもしくはスモールミーティングにて、決算数値や経営計画などの詳細 について、双方向の対話を実施
 - •工場見学会(年2回:国内1拠点、海外1拠点)(国内14名、海外2名) 機関投資家や証券会社アナリスト向けに工場見学会を開催し、製品や各工場の特 徴について説明
 - ·SRミーティング(年2回:国内28名)

総務部が国内の大株主(機関投資家)に対し、ガバナンスを中心とした当社の取 り組みや品質不適切行為および重大災害に関する状況と対応策について対話 を実施

- ・1on1形式トップミーティング(国内7名) 社長が国内機関投資家と、ポートフォリオ変革や事業計画など経営戦略の考え などについて議論
- 海外ロードショー(年2回:海外22名) IR担当役員が米州、欧州、アジアなどの海外機関投資家と、経営計画やビジネス モデル、研究開発、株主還元、ESGなどについて対話を実施(証券会社主催のカ ンファレンス年1回を含む)
- ■株主の意見や考え方を経営陣にフィードバック (年4回+都度)

対話において把握した株主の意見を、社長をはじめとする経営層や、関係部門へ四半期ご とにフィードバックすることに加え、株主の意見が多く集まる事象があった場合には、その都 度フィードバックを実施。次回以降の開示資料や、経営戦略策定・推進策の参考として活用